

白毛門～西黒尾根馬蹄形縦走記録



目的地	谷川連峰馬蹄形縦走 (白毛門～)	期 日	平成19年9月23～24日 (日・祝)
山人	笠原正雄・笠原澄子	特 記	かねてより狙っていたコースを清水峠幕営で歩く。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
前 日 (22日)			
与 板 発	午後4:45	曇	小千谷で弁当等を買ひ、越後川口～水上高速。谷川温泉民宿素泊り。
やど千秋庵	7:30		5室のみの小宿。入浴後弁当夕食。9時就寝。
第1日 (23日)			
やど千秋庵	午前4:30発	曇	寝汗をかいたので起床後24時間風呂へ。おこわ朝食。
土合橋駐車場	5:35発	〃	土合駅前前でザックを計量。16kgと8kg。少し明るくなったところで土合橋に移動する。駐車は30台程度あった。歩き出してポストで届け記入。
サンドウエッチ 休 憩	6:40～6:50	〃	この季節にしては気温が高い。風も無く歩き出すと早速汗が落ちてくる。登路で食べる。直前、笠ヶ岳小屋泊の単独下山者と会う。次いで千葉からの単独男が追越しグングン登って行く。
休 憩	7:45～7:55	〃	右手の樹間から細く長い大滝が見えた。水音も聞こえる。大福を食べる。
松ノ木沢の頭	8:15～8:30	〃	鎖を終えるとすぐに到着。マチガ沢、一ノ倉沢を見る。ジジ岩・ババ岩もガスの切れ間から姿を見せた。
白 毛 門	9:20～9:30	〃	山座円盤で明日の縦走路を目で追う。但し、武能岳はしっかり見えたが茂倉岳ほかは見えずそうで見えない。笠ヶ岳稜線に2人見えた。頂を下り、登降の後登りにかかるが、数人とスライドする。沢登り下山者も混じる。
笠 ヶ 岳	10:30～11:25	〃	ガスがやや濃くなって展望は無くなる。湯を沸かし焼酎お湯割りとコーヒー。イナリ寿司でランチ。逆回り縦走者が数人やって来た。昨日の蓬ヒッテ宿泊は15人の超満員、カレーライスタ食と聞く。芳子さんにTEL。
朝 日 岳	12:40～12:50	雨	雨が当たり始める。雨具上衣着用。降りて木道となる。進むうち雨が強くなって来て、ズボンも穿く。宝川温泉分岐下で集うグループを見る。
ジャンクションビーク	1:15	曇	道標の右は巻機山、難路(道ナシ)とある。笹が覆う地面に踏み跡が分かる。
清水街道を見る	1:50		ガスの切れ間から右下に舗装道路が見えた。標高が下がった感じだ。
一 服 点 け る	2:00～2:05	〃	灌木帯の下りで立ち休み。男女4人隊とスライド。本日中に土合までと言うが、暗中歩行は必至で大丈夫だろうかと思う。
清 水 峠	2:50着	霧	監視小屋の発電機エンジン音が聞こえて来た。ガスの中にその大きな建物が先に見え、その手前の祠の銅版が黄色に見えた。白崩小屋を確認出来たのは一番後だった。小屋に入って見た。追越して行った千葉男ともう一人が火を使っていた。更に一人やって来た。計7人利用と翌日に聞いた。
幕 営		〃	小屋裏の鳥居脇の好適地に張る。監視小屋前から土合方向に3分程下り小沢の水を汲む。10数人隊が土合に向けて下山して来た。

夕 食	3:40~	〃	水割缶・焼酎お湯割り・ビール・ラーメン・おにぎり・イカ煮缶・鮭缶と重い物を優先して食べるようにした。男が水場を尋ねて来た。
就 寝	6:00	霧	ガスは濃いですが上からは落ちて来ない。一晩中風が絶え間なく吹き、フライシートをはためかせる。夜中1時から「ラジオ深夜便」を聞く。
第2日(24日)			
起 床	3:00	霧	クロワッサンと蜂蜜・ポタージュスープ・コーヒーで朝食。
歩 き 出 し	4:35	〃	まだ暗い中、頭電と雨ズボンで出発。監視小屋は夜中もエンジンが回っていて、部屋に電気が点いていた。笹の道は照らせば分かりやすい。
七 ツ 小 屋 山	5:35	〃	序々に明るくなって来て10分前に頭電を消す。ガスで展望は全く無い。数分前に広く刈払われた大源太山への分岐を通過。
シシゴヤノ頭分岐	6:10	〃	比較的新しい道標にシシゴヤノ頭1.7km/旭原P6.0kmとあるが、右に向かう道は刈払いが入っておらず笹が覆っている。
蓬 ヒ ュ ッ テ	6:20~6:30	〃	手前で単独男2人とスライド。ヒュッテ前では白樺小屋方向へ下る男女数人隊が出発準備中。小屋番が顔を出す。少し会話する。笹団子を食べ歩き出したが、霧が更に強くなり、すぐに雨具上衣も着る。
武 能 岳	7:25~7:30	〃	ヒュッテ後しばらくは広く刈られていたが、途中で笹が覆う道となる。とたんに歩行速度が落ちる。単独男女とスライド。女は肩ノ小屋泊で蓬峠から土樽へと言う。群馬県側からの横風が天然のミストシャワーだ。笹の露で靴の中まで水が滲みて来た。
岩 場 で 休 む	8:20~8:25	曇	右手の雲が切れ、青空と足拍子山が見えた。5:30発と言う千葉男が追いついて来た。進むうち時々越後側の展望が利き、越後平野と米山がはっきり見え、弥彦山も分かった。カメラを出そうとするとガスが覆う。
茂 倉 岳	9:30~9:40	〃	ここへの登りは武能岳のそれより楽で、思ったより早くに着いた。誰も居ない。腰を下ろしおにぎりを食べる。展望無し。
雨具上衣を脱ぐ	10:15		一ノ倉岳を降りると薄日が当たった。最低鞍部で脱ぐ。夫婦とスライド
オ キ ノ 耳	11:05	〃	数人が居た。先へ進む若者2人と写真を撮り合う。トマの耳はトラバース。頂では新津ハイキングクラブが大勢で横断幕を広げて記念撮影中。
肩 ノ 小 屋	11:30~12:00	霧	食堂に入り350缶ビール(500円)を2本買う。雨が降っていたら天神平に下るつもりだったが、降ってはいないので、濡れている岩場は懸念されるものの予定通り西黒尾根に向かう。ゴンドラ代がモッタイナイ、歩いて縦走を完結させたいとの思いもあった。慎重に下るがザンゲ岩下の露岩で足を滑らせ転んだ。左腿外側の打ち身痛が数日間残った。
ガ レ 沢 の 頭	1:05~1:10	〃	通過後少し降り降りとなる。数箇所鎖場があり、後半にストックを投げ下ろしてから降る程の急で長い鎖場があった。
樹 林 帯 で 休 む	1:35~1:40	〃	空腹、最後のお握りを食べる。単独男が追越して行く。一声かけ、互いに濡れた岩場の下りの嫌らしさを述べ合う。岩混じりの降り難い道が続く。
アスファルト道	2:55 着	曇	足裏が痛く感じてようやく到着。指導センター前の水で靴と雨ズボンの泥を洗い落とす。空席のゴンドラが動いている。
土合橋駐車場	3:35 着	〃	車は数台が残るのみ。歩行終了時の荷重を計量する。13.5kgと5.5kg。湯テルメで入浴。
与 板 着	5:40	〃	高速通勤割引利用で小千谷から下道へ。疲れのせいか壺ビール2本を飲み終えるのに時間がかかった。片付けは翌朝にして、8時から爆睡zzz。

ハードであった。勿論覚悟の上である。歩き終えれば充実感は大い。

昨秋の体育の日に単独小屋泊で目指したのだが、強風のため、歩き出せずに帰って来た。今回は妻同行で、かつテント持参である。おのずと荷重は大きくなった。この程度が何とか歩ける限度と感じている。

巖剛新道は何度か使っているが、西黒尾根は一度だけ中学生の時に登っているのみだ。40数年前のことで、印象を覚えているはずもない。そのクラシックルート歩いてみたいと思い下って見た。ところが、登りならば良いが、最終盤の疲れた脚での下りは少々こたえた。巖剛新道の方が楽だったかも知れない。

初日は、僅か展望はあったが、2日目は殆んど霧と雲で遮られていた。お天気の日にもう一度行ってみたいとは思いますが、その気力が沸くかどうかは今のところ疑問である。